

## 2. ASP<sub>12</sub> 培地の作成

- (1) 900 ml 程度の蒸留水に組成表 (APPENDIX) どおり試薬を加え, 十分溶解させる。
- (2) pH を 7.8 に調整し, 蒸留水を加え 1000 ml とする。
- (3) オートクレーブ滅菌 (121° C, 20 分) する。培地は 4° C で冷蔵保存する。

参照:

千原光雄, 西沢一俊 (編) 1979. 藻類研究法 pp. 287-288. 共立出版, 東京

## IV. 系統株のリスト

### 1. データ項目の解説

◎系統株のリストは網ごとに, それぞれ学名のアルファベット順に配置し, また同一種内では, 株番号順に配置しています。リストのデータ項目の内容は以下を参照してください。

例)

*Schizocladia ischiensis* E.C. Henry, Okuda et Kawai<sup>1)</sup>

Strain: KU-333<sup>2)</sup>. Origin: Ischia Isl., Naples, Italy (1987-10-21)<sup>3)</sup>. Leg./Isol. E. Henry<sup>4)</sup>. Culture: PES; 10°C<sup>5)</sup>.

Note: Type culture; 18S rDNA, *rbcL*<sup>6)</sup>. Reference: Kawai et al. (2003)<sup>7)</sup>

1) 学名と原著者名

2) 株番号: KU- の後に数字を付して使用する。

3) 採集地, ( ) 内は採集年月日

4) 採集者 / 単離者

5) コレクションで用いられている培地・培養温度

6) 株情報 (世代, 性および Type culture など), DNA 塩基配列解析による同定, 保存株のタグ化のために用いた分子マーカー, 凍結保存状況 (凍結保存株が存在する場合は “cryopreserved” と記入)。当該株が北海道大学から移転されたものである場合, 北大の株番号 [HOK code] を先頭に付してあります。

7) 参考文献 (当該系統株を利用して行われた研究成果論文のリストで, 詳細は巻末に掲載)